

株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第113期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当社グループは、常に変革に挑戦し続け、快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供することを企業理念としております。その実現のためには、健全な利益と成長を実現し、企業価値を持続的に向上させることが重要と考えております。これに向けて、「既存ビジネスの強化」、「真のグローバル化の加速」、「新たなサービスビジネスの創造」という3つの成長テーマを掲げ、これらの実現に取り組んでまいりました。

当期においても、これらの取り組みは、一定の成果をあげつつあります。しかしながら、当期の業績は、国内では、パソコン、携帯電話、LSI、電子部品などのハードウェア製品が市況悪化や価格競争の影響を受けました。海外では、欧州向けパソコンや北米向け光伝送システムが低迷いたしました。

また、「既存ビジネスの強化」の取り組みの中で、当社グループでは、LSI事業および海外事業の構造改革を課題とし、これらへの対応を検討してまいりましたが、平成25年2月にこれらの事業の方針と再編を決定し、これに伴う事業構造改善費用など約1,500億円の特別損失を計上いたしました。

この結果、当社グループの連結業績は、売上高4兆3,817億円、営業利益952億円、経常利益1,054億円、当期純利益は729

取締役会長
間塚道義



代表取締役社長
山本正巳



億円の損失となりました。

また、個別決算においては、売上高 2兆 878 億円、営業利益 278 億円、経常利益 541 億円となりました。しかしながら、LSI 事業子会社および欧州子会社の業績悪化と特別損失の計上に加え、英国子会社においても業績が悪化しており、さらに、同社において会計基準の変更により退職給付積立不足額を認識することとなり、約 3,800 億円の関係会社株式評価損を計上いたしました。そのため、当期純利益は 3,380 億円の損失となりました。

当期の期末配当は、個別決算において約 3,800 億円の関係会社株式評価損を計上したことを要因として、利益剰余金がマイナスとなったことから、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。構造改革を進展させるこ

とにより、業績を回復させ、早期に復配できるよう財務体質を改善していく所存です。

当社グループでは、平成 27 年度に終結する中期目標として、「営業利益 2,000 億円以上」、「純利益 1,000 億円以上」、「フリー・キャッシュ・フロー 1,000 億円以上」を設定いたしました。この中期目標を達成すべく、「対処すべき課題」に掲げた成長テーマの実現に取り組んでまいります。

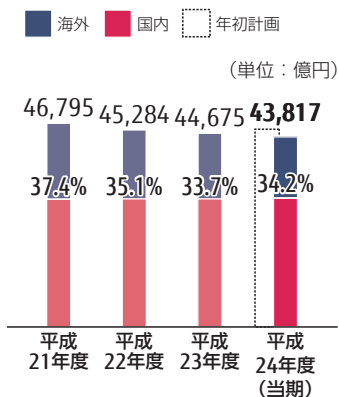
株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 5 月

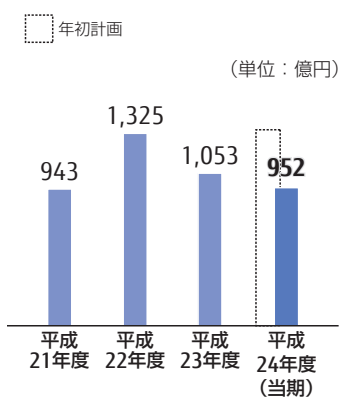
取締役会長 問塚通秀

代表取締役社長 山本正巳

連結売上高／海外売上高比率



連結営業利益



連結当期純利益

